



よこと館だより

Est. 1912

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局



理事長閑話 埋め草 ⑥

～長期勤続顕彰 記念の金メダル～

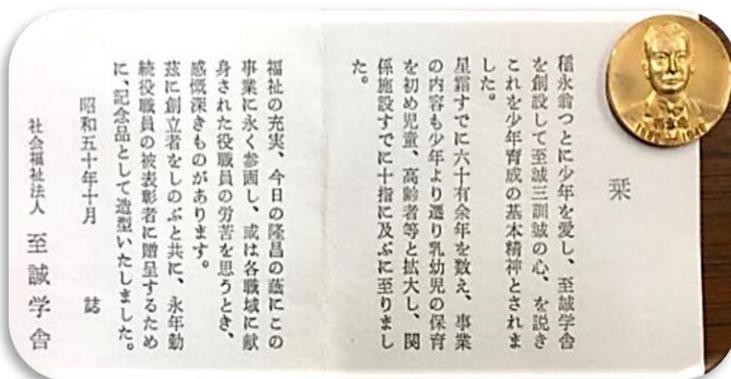
現代に生活する我々は様々な番号を持っています。社会保険番号、預金通帳番号、マイナンバーカードの番号、パスポートの番号等々枚挙にいとまはありません。ところで、フィンランドでは社会保険関係の番号、医療保健情報、課税情報は一枚のカードにデータ化されます。そしてその番号は生まれた年・月・日・時間で自動的に決まり、社会生活上の程んどの情報はその番号で証明されます。いわゆる ID 番号です。高度な管理社会の背景です。

ところで私にとり忘れられない番号が二つ有ります。一つは 111 番。二つ目は 42 番です。111 番は大学時代の山岳部の部員番号です。何の弾みか入部をしてしまった体育会山岳部、新人時代の一年間、汗と涙の年間 7 回の合宿、3 月の春山合宿の最終日、ようやく新人時代が終わり晴れて部員になれてもらった部員バッチの番号です。そして 42 番は至誠学舎の長期勤続記念メダルの番号です。

この制度は 1975(昭和 50)年に始まり、勤続 15 年の表彰に添えられる記念品です。番号 1 番は名誉都民に推挙された法人第 3 代理事長阿(ほとり)観心先生の番号です。因みに第 4 代橋本良市先生は 4 番、第 7 代高橋利一先生は 14 番、至誠学舎東京の現理事長阿亜紀良先生は 37 番です。

さて、この番号は記念品として贈呈される金メダルに刻印されています。そしてメダルは創設者稲永久一郎翁の顔が刻まれた 18K・10g の重みのあるものです。実は数年前税務署からこの記念品に源泉徴収をするようにとの指導を受けました。記念品としてではなく金の価値に対しての税金なのです。世の中は厳しいですね。

さて、昨年度まで贈呈数は 427 個(至誠学舎東京と通算です)。贈呈者の名簿を見ると、昔共に働いた仲間の顔が浮かびます。これも歴史、至誠舎立川の財産です。表彰は 6 月の評議員会の席で行います。今年は保育事業から 5 名、至誠ホームから 4 名の 9 名の方々が表彰・贈呈されます。長く法人に尽くされた貢献に心からの感謝と今後の活躍を期待します。まだ条件に達しない職員の方々、ぜひ金メダル獲得を目標に頑張ってください。GET! 理事長 橋本正明



事業本部長メッセージ

児童事業本部事務局、ある日の午後の光景です。私の正面に PC の画面に向かってお話している高橋事務局長がいます。web 利用による東社協の会議のようです。時折「〇〇先生、聞こえていますか？」ひと呼吸おいて「聞こえていますよー！」そして聞き覚えのある何人かの笑い声が続きます。

一方、左の方に顔を向けると採用事務を担当する職員が、こちらは PC 画面にアップで映る女性とスムーズに会話をしています。どうやら週末に予定されている web 採用面接の接続試験をしているようです。画面の中の女性はリクルートスーツで表情からも緊張感が伝わってきます。3 分ほど確認作業をして終了。しばらくすると別の人が画面に登場して、同じ確認作業が繰り返されていきます。おお、そうこうするうちに正面の web 会議も、ようやく会議らしくなってきたようです。

新しい形を受入れて始めること、変化していくことにどうやら躊躇している余裕はなさそうです。チャールズ・ダーウィンの言葉が脳内をめぐります。ほんの数か月前まで、予想だにできなかった光景ですが、もうすぐ「あたり前」になるのでしょうか。この機に、これまでの慣習を見直し、「思い切り」と「柔軟性」と「覚悟」をもって、行動することが求められているように思います。きっと、あなたにも、私にも。

児童事業本部長 石田芳朗



事業本部情報

🌱 児童事業本部 🌱

「至誠こどもセンター」の整備が着々と進み、毎週火曜日は「お片付け Day」として、感染対策に気を付けながら作業が続けられています。夏に予定している工事に向けて長年、手が付けられなかった場所が整理されています。歴史ある物々の処分は辛い気持ちも伴いますが、そういう思いが共有され、今まで放っておかれた各所が本来の目的の場所になり、人々の想いや初志を果たすことに繋がると思います。

メンバーシップの中から責任感が湧き出てゴールへ向かう今回の新規事業への取り組みは、新しいアプローチだと感じます。共通の目標に向かって力を合わせて改善していく作業は、この上ない喜びです。さらに職場環境や子ども・利用者の生活環境の改善に波及していくような流れを文化風土として根付かせたいものです。今年本格始動の至誠こどもセンターから、児童養護の生活環境の改善、そして至誠障害総合福祉センターの開設に皆の力を結集しセクショナリズムの壁を越えた先の風景を共に見ましょう。

(児童事業本部 副本部長・事務局長 高橋誠一郎)

🌱 保育事業本部 🌱

当園に多目的ホールがあります。笑顔いっぱいホールをめざして「にこにこホール」と名前を付け地域の方に開放し遊びに来てもらっています。そのホールの軒下に『セキレイ』が巣を作り雛がかえりました。お母さんが5分に一度くらい餌を運んできます。その様子を子ども達とみていると、警戒して餌を口にせず、じっとこちらを見ている。姿を消すと巣に行きます。可愛らしい鳴き声が聞こえ、餌をもらったことが分ると子ども達も嬉しそうに「にこにこ」と顔を見合わせていました。5月22日無事巣立っていきましたが、6月に入りセキレイが餌を加え巣に運ぶ姿が見られ可愛い雛たちの鳴き声が聞こえてきます。セキレイが子育てをしているようです。このホールは鳥たちの子育てにも良い環境のようです。

平成22年に開設した「にこにこホール」は、園庭開放、サークル支援、育児講座などを中心に、地域の方の居場所として喜ばれてきました。新型コロナウイルスの影響により3月からお休みをさせていただいていました。6月中旬より再開しましたが、皆さん自粛されているようです。原点回帰、地域の方の安心した居場所となるように力を注いで参ります。

(万願寺保育園 園長 長谷川 育代)

🌱 高齢事業本部至誠ホーム 🌱

私は調布地区の2カ所の拠点でセンター長をしています。至誠ホーム調布若葉ケアセンターは京王線つつじが丘駅と仙川駅のちょうど中間地点にあります。近くには武者小路実篤記念館や通称タケノコ山という竹林の小山があり、道を隔ててすぐに世田谷区という立地で、自然豊かな地域です。5月はウグイスの鳴き声が毎日響いていました。こちらに異動した当初は「きつと雰囲気を出すためにスピーカーで鳴き声を流しているんだろう」と思っていたのですが、本物と聞いて嬉しくなりました。鳴き方も最初はぎこちなく「ホッホケツ・キョ」とガクッと来るような感じでしたが、徐々にうまくなっていく様子も楽しみでした。

(この原稿を書いている時期には聞こえなくなりました)

もう1カ所は京王線柴崎駅から徒歩5分、調布市の中心に近く、甲州街道沿いにひと際目立つ赤門が目印の調布柴崎ケアセンターです。住宅街にある若葉と違い、交通量も通行人も多く、近隣には個人経営の美味しい飲食店が沢山あります。新型コロナの影響で、仕事終わりに柴崎界隈で一杯・・・ということができない状態ですが、若葉の自然にひと時癒されながら、日々を過ごしています。自然はありがたい！ (至誠ホーム調布若葉・柴崎ケアセンター長 福田靖子)



本部事務局だより

コロナ禍がもたらした世の中の変化の一つに「テレワーク」があげられるだろう。テレワークができる業種は限られているが、その中の「Web会議」は、三密を避けてできる事として注目されている。Web会議は、遠く離れていても場所や移動時間に捉われないというメリットがあるばかりでなく、画面上に自分の姿が映し出されるからか、協調圧力が少ないせいか、議論が活性化すると聞く。Web会議も会議である以上「議題に関して意見交換し、意思決定する」ことには変わりはないので、議論が活発化することは良い事だろう。もう一つのメリットは、記録性があるので自分の言ったこと、決まったことは、責任を持って実行されることだろう。ただし、発言しない人は、だんだん画像が小さくなり最後に消えていくかもしれない。至誠学舎立川でも検討してはどうだろうか。(法人事務局長 野島 忠幸)

(編集後記)2020年の夏は土用の丑の日が2回あるようです。(ちなみに日程は7月21日・8月2日)鰻を食べてこの夏を乗りきりましょう！(小)